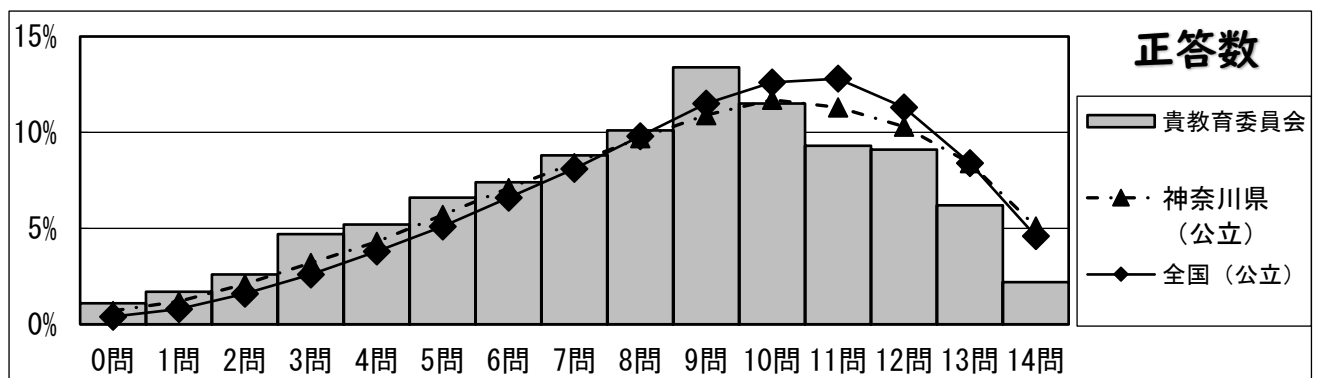
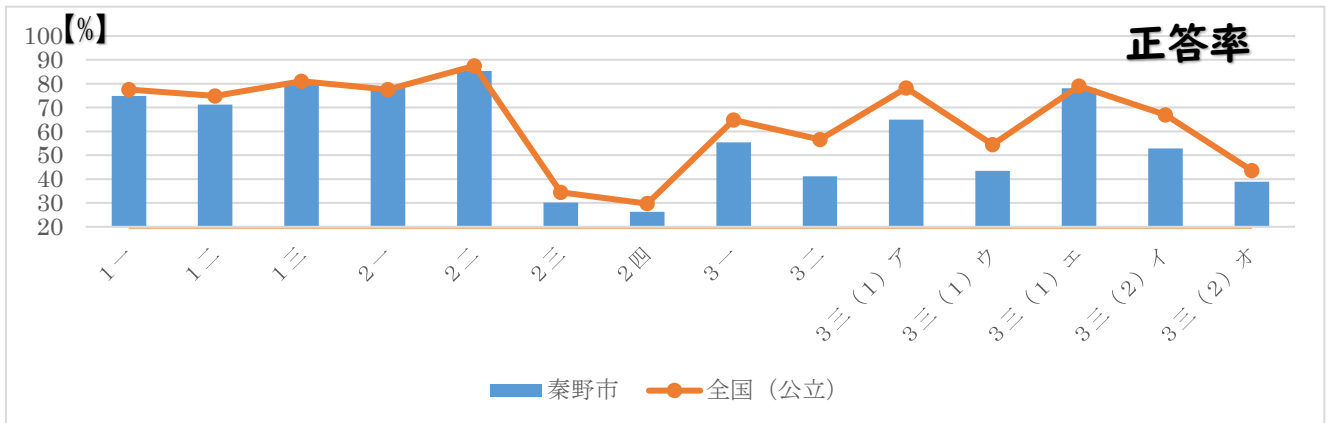


教科及び質問紙に関する調査の結果分析（小学校）

秦野市教育委員会 教育指導課

1 国語科

(1) 問題毎の正答率と正答数の分布について

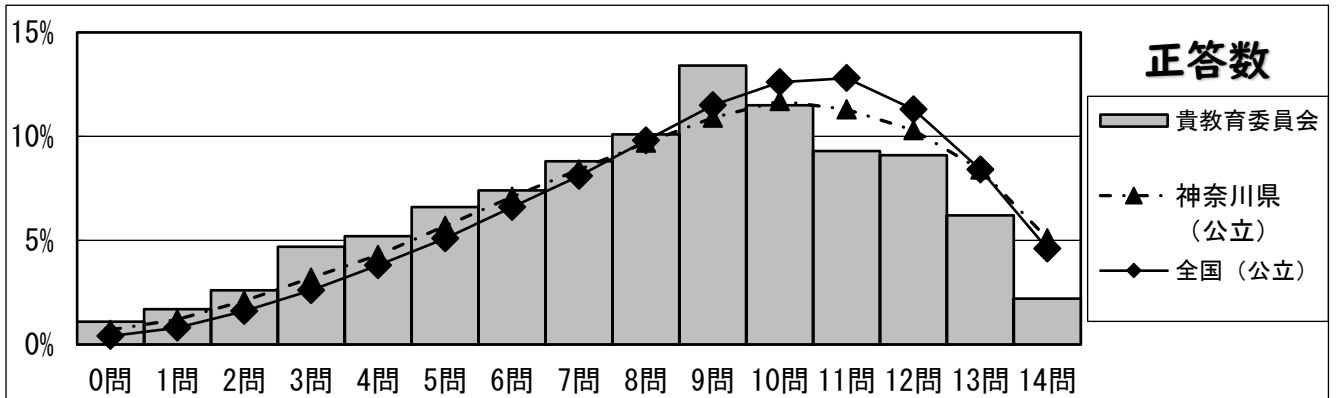
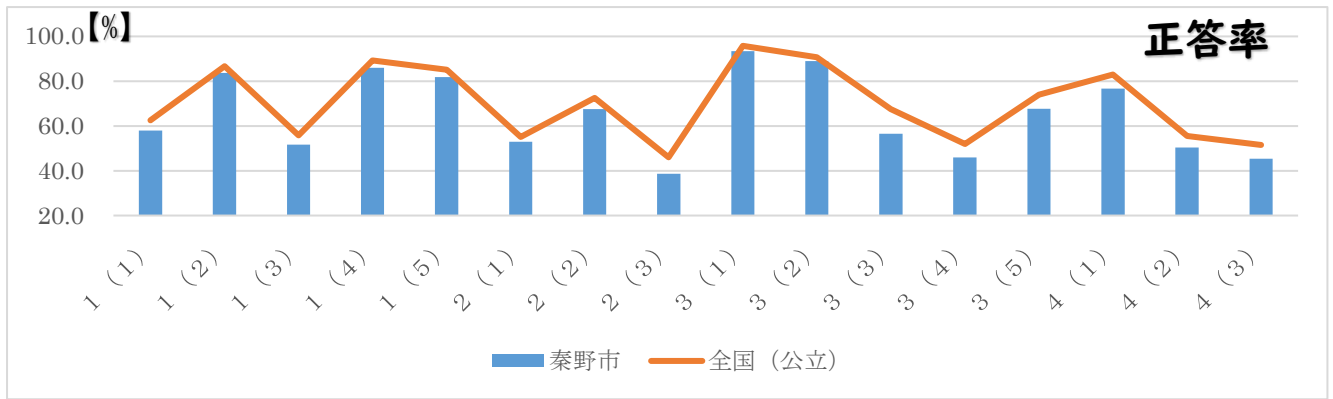


(2) 内容及び学習指導について

内容について	学習指導にあたって
設問 1 二・1 三の結果から、資料を活用して自分の考えが伝わるよう表現を工夫したりする力は概ね身に付いています。	資料を活用する力を一層伸ばしていくためには、自分が伝えたいことに応じて必要な資料は何か、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるような場面に授業に位置づけ、資料を活用することの良さを実感できるような学習指導が大切です。
設問 2 二の結果から、思考に関わる語句の使い方を理解し話や文章の中で使うことができています。	思考に関わる語句の使い方を理解するには、語句の使われ方に気を付けて読むことで、筆者が伝えたいことをより正確に捉えられるということを見ることが効果的です。
記述式の問題については正答率が低い傾向にあります。特に設問 2 三・2 四のような目的に応じて必要な情報を見つけたり、論の進め方について考え記述したりすることや、中心となる語や文を見つけたり要約することに課題が見られます。	文中で用いられている図表などが文章とどのように結びついているのかを明らかにした上で、文章と図表との関係を捉えて読むことができるようにすることが大切になります。その際、図表から見つけた情報と文章のキーワードを実線で結んだり、見つけた情報を言葉に表したりすることで、視覚的に文章と図表の関係性が明らかにするような学習指導を行うことが効果的です。
設問 3 三 (2) オの結果から、文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題が見られます。	修飾語には動きを表す語句を詳しくする場合と、物や人などを詳しくする場合があることを理解できるようにすることが大切になります。そのためには、修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせたりするといった学習活動を行うことが効果的です。

2 算数科

(1) 問題毎の正答率と正答数の分布について



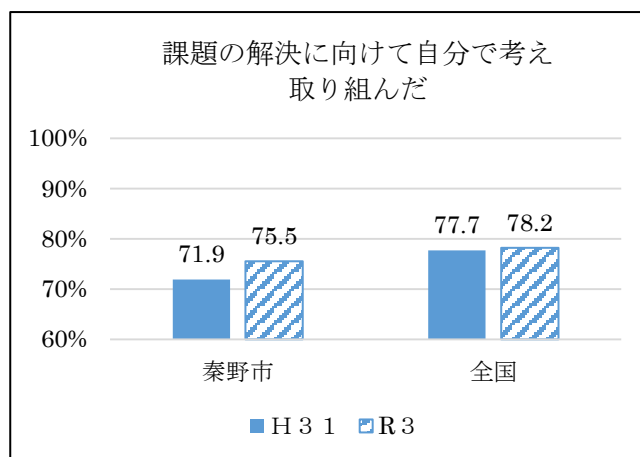
(2) 内容及び学習指導について

内容について	学習指導にあたって
設問 3 (1) (2)の結果から、グラフから必要な数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ったりする力は概ね身に付いています。	グラフから必要な情報を読み取るには、最大値や最小値、差、割合といった点に着目するよう指導し、グラフから読み取った特徴を表現する活動が効果的です。また、項目間の関係に着目し、比較することで分かることを表現する活動も大切になります。
設問 1 (2) (5)の結果から、道のりと時間の関係について考察したり、速さと道のりをもとに時間を求める式に表したりすることについては相当数の児童が理解できています。	伴って変わる二つの数量関係について考察するためには、問題文をよく読み想像しながら問題場面を理解し、解決に必要な数値や数量を選択し、関係性について式や図を用いて表現することが重要になります。日頃の授業の中で、丁寧に資料を読んだり、問題と向き合ったりする時間を充実させていくことが大切です。
設問 2 (1) (3)の結果から、基本図形の面積の求め方や、図形を構成する要素などに着目して筋道を立てて計量の仕方を説明することなどに課題が見られます。	不要な辺や長さを示した図を提示し、求積に必要な情報を選び出す活動等を行うことで、図形を構成する要素に着目することができるようになり、公式のスムーズな活用につながります。また、公式を導くために等積変形をする際、元の図形と変形後の図形の辺や高さの対応に着目させることも大切です。
設問 4 (2)の結果から、問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場合を理解したり、除法の結果の意味を解釈したりすることに課題が見られます。	本問においては、被除数と除数を誤って捉えて立式している誤答が目立ちます。学習指導にあたっては、具体物を用いて立式の理由を説明する活動等を通して、除法の場面において何が被除数で何が除数なのかを正確に捉えることができるようにすることが大切です。

3 児童質問紙

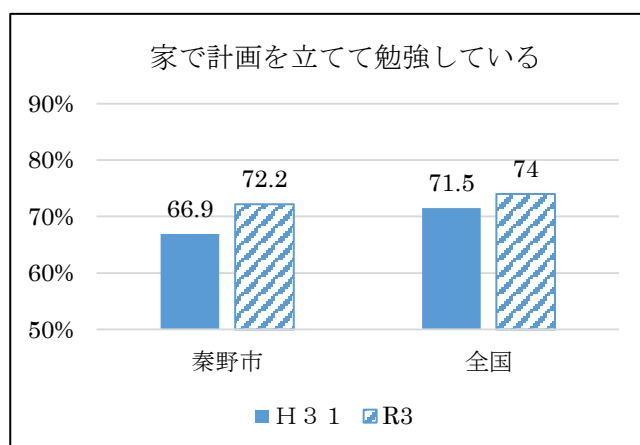
【非認知能力に関すること】

非認知能力を図る項目として本市が着目している「課題の解決に向けて自分で考え取り組んだか」という設問について、全国平均に及ばないものの肯定的に回答する児童が昨年と比べ増加しています。非認知能力は数値等で表される認知能力を支える力であることから、学校・家庭・地域が協力しながら、学校内外の様々な生活場面において育んでいくことが求められます。



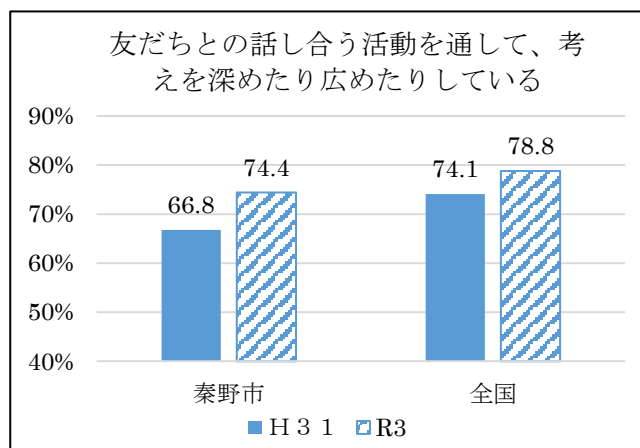
【学習習慣に関すること】

「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は増加しており、ほぼ全国平均となる一方で、「学校以外で1時間以上勉強している」と回答した児童の割合は全国平均を下回っています。継続的な家庭学習や読書活動は基礎学力の定着や知識の獲得につながるという重要性を踏まえ、学校は、家庭と協力しながら児童が自主的に家庭学習に取り組むことができるよう支援していくことが求められます。



【主体的・対話的で深い学びに関すること】

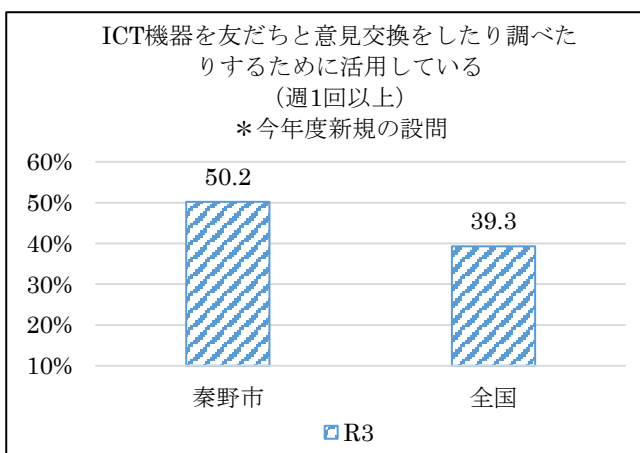
「話し合う活動を通して考えを深めたり広めたりしている」と回答した児童は、全国平均には及ばないものの改善傾向が見られ、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が図られています。「主体的・対話的で深い学び」は、学習内容の理解を深めるだけでなく、学習意欲の涵養や学習方法の定着にもつながることから、引き続き授業改善を図ることが求められます。



【ICT 機器による学びの充実に関すること】

「ICT 機器を使って意見交換をしたり調べたりしている」と回答した児童の割合は全国に比べ高くなっており、学校においてタブレット端末が有効に活用されていることが分かります。

ICT の活用は、学習意欲を高めるだけでなく、学習内容の理解や深化を促す有効なツールとなり得ることから、引き続き活用にあたってのメリットを教師や児童が十分に理解した上で、一層効果的に活用を進めていくことが必要です。



【その他主な項目】

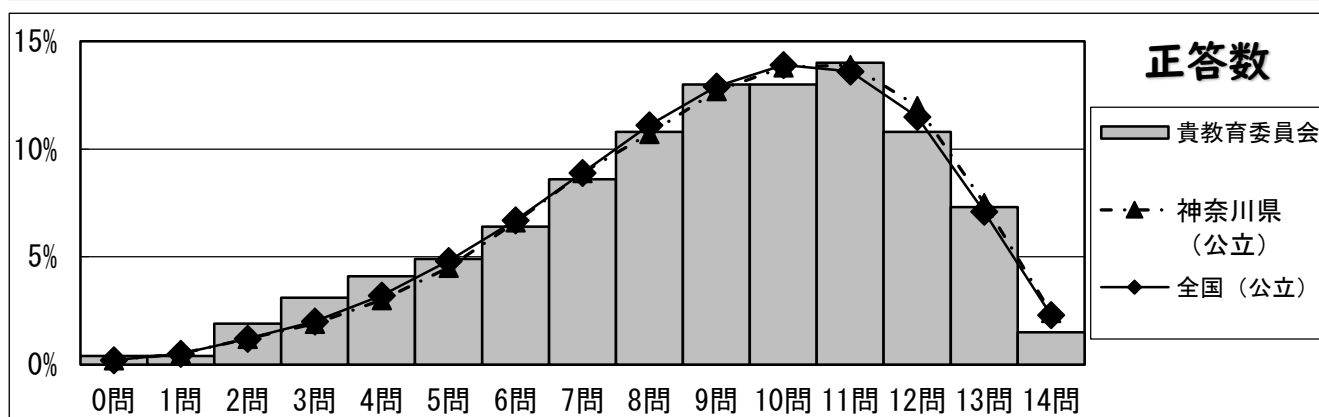
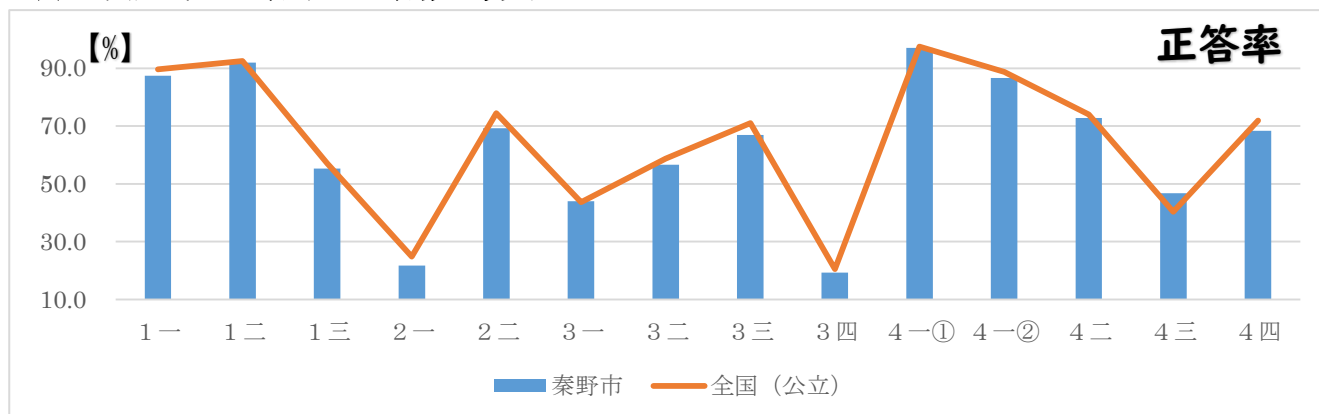
	H30年度 【%】	R元年度 【%】	R3年度 【%】	全国 【%】
朝食を毎日食べている	93.2	93.9	93.5	94.9
毎日同じ位の時刻に寝ている	74.5	80.3	80.3	81.2
毎日同じ位の時刻に起きている	88.3	89.9	89.7	90.4
夢や目標を持っている	78.3	80.0	78.9	80.3
自分にはよいところがある	76.6	77.2	72.5	76.9
やると決めたことは、やり遂げるようにしている			82.4	84.3
失敗を恐れず挑戦している		76.5	67.9	70.9
人が困っていたら助ける		85.6	87.5	88.7
いじめはどんなことがあってもいけない	94.3	96.3	96.1	96.8
人の役に立つ人間になりたい	92.3	94.3	96.2	95.5
学校は楽しい		85.5	82.8	83.4
自分の思いや感じたことを言葉で表すことができている			63.7	70.3
友だちと協力するのは楽しい			93.9	93.9
計画を立てて勉強している	59.7	66.9	72.2	74
学校以外で1時間以上勉強している	53.6	56.6	53	62.8
読書をする	76.8	78.8	70.6	76.1
新聞を読んでいる	30.0	29.7	22.1	29.8
地域行事に参加している	53.2	60.1	52	58.1
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	39.6	46.0	47.8	52.4
授業でICTを使用した		35.2	38.9	40.1
ICT機器を友だちとの意見交換や調べ学習に活用している			50.2	39
自分の考えを工夫して発表した	51.5	56.7	61.8	63.5
課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んだ	68.5	71.0	75.6	78.2
自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた			79.7	81.4
話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている	67.8	66.8	74.4	78.8
学習した内容について分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。			74.9	78.3
総合の学習では自分で課題を立て整理し、発表するなどの活動に取り組んでいる		53.2	65.4	73
英語の勉強は好きである			69	68.3
学校の休校中に勉強について不安を感じた			60.6	55.2
学校の休校中に計画的に学習を続けることができた			62.3	64.6
学校の休校中に規則正しい生活を送ることができた			64.6	63.1

教科及び質問紙に関する調査の結果分析（中学校）

秦野市教育委員会 教育指導課

1 国語科

(1) 問題毎の正答率と正答数の分布について

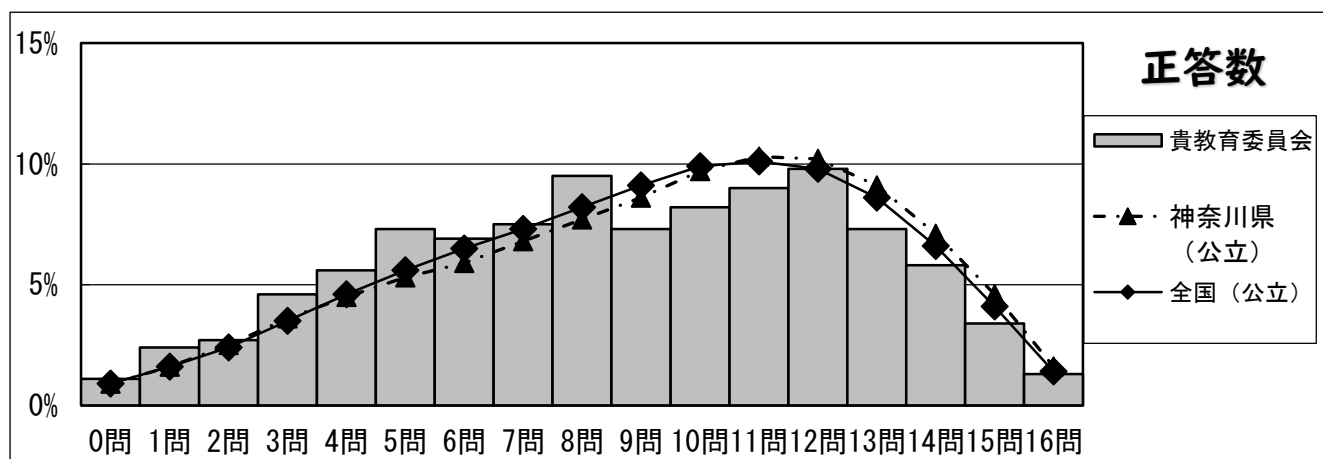
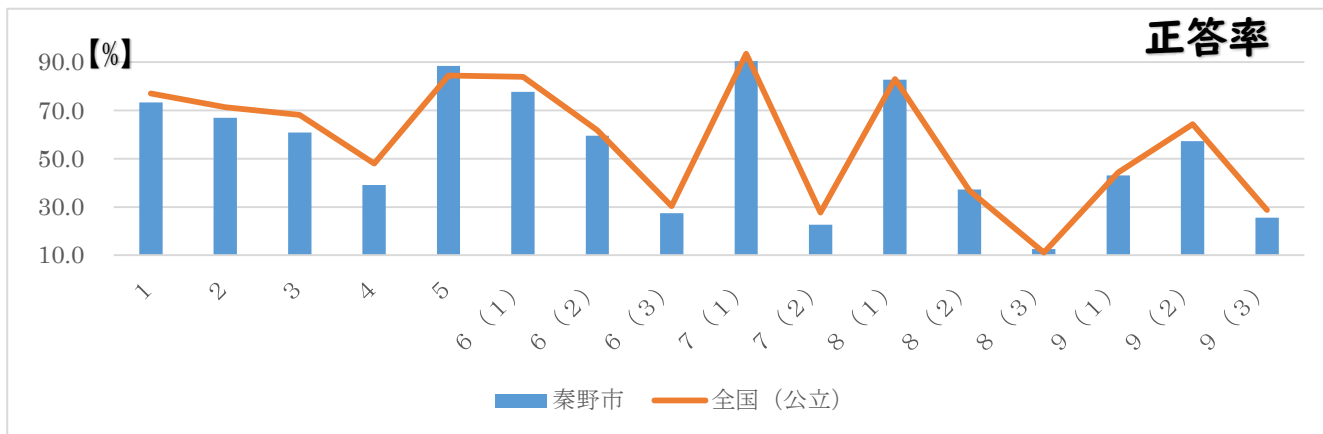


(2) 内容及び学習指導について

内容について	学習指導にあたって
設問 1-1・2の結果から、話し合いの話題や方向性を捉えたり、質問の意図を捉えたりする力は概ね身につけています。	発表や報告などを聞く学習活動では、必要な情報を書き留めたり、疑問点や確認事項を話し手に尋ねたりすることが効果的であることを指導することが大切です。また、話し手に質問する際には、質問の適切な機会を捉えるとともに、知りたい情報に合わせて効果的な質問をするよう指導することも大切になります。
設問 4-1①②の結果から、文脈に即して常用漢字を正しく読むことができます。	文脈に即して漢字を正しく読むための指導にあたっては、必要に応じて辞書を活用して漢字の音訓を確かめたり、実際に文章の中で使ったりするなどの学習活動が大切です。引き続き、教科書を読むことや読書を通じて漢字の読みの習熟と応用を図るよう指導することも大切になります。
設問 2-1の結果から、書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して推敲して書くことに課題が見られます。	目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導することが大切です。その際、作文の際に表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などについて指導し推敲を繰り返すことで、生徒の理解が一層深まります。
設問 3-4の結果から、物語に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考えを持つことに課題が見られます。	物語を読んで自分の考えを持つには、内容を把握し自分なりに解釈するとともに、理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠を知ったりするような学習活動が大切です。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて解釈したのかを振り返り、考えを確かなものにする活動も大切になります。

2 数学科

(1) 問題毎の正答率と正答数の分布について



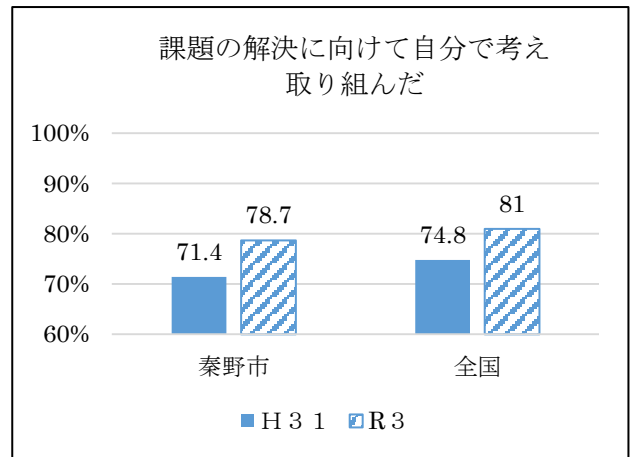
(2) 内容及び学習指導について

内容について	学習指導にあたって
設問8より、ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることは概ねできていますが、相対度数の必要性和意味の理解や、データを基に判断した理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られます。	相対度数の必要性や意味について理解を深めるには、例えば度数の合計が異なる二つの集団のデータを比較する際に、相対度数を用いた方がデータの傾向について比較しやすくなる場合があることを知るなど、授業において必要性や良さを確認する場面を設定することが大切です。また、グラフを基に判断した理由を数学的な表現を用いて説明する力を育むためには、グラフからデータの分布を捉える場面を設定し、傾向的的確にとらえて判断し、文章や言葉で表現する活動が効果的です。
設問7より、グラフから必要な情報を適切に読み取ることは概ねできていますが、グラフを用いた問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られます。	日常生活において問題の解決に数学を活用するような場面を設定することが大切です。解決にあたっては、問題解決の方法に焦点を当て、数学の中から「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明できるように指導することが考えられます。
設問6より、予想した考察が成り立つか式を用いて表すことはできていますが、式を変形したり意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明したり、ある事象に関して文字式から分かる事柄の特徴を説明することに課題が見られます。	ある事柄が成り立つ理由について見通しを立てて説明する場面を設定し、その中で文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切です。その際、読み手に伝わるよう、必要な情報を落とさず記述するよう指導することも求められます。また、文字式で表された事象について、具体的にどういうことなのかを解釈し、自分の言葉で説明し直す等の学習活動も効果的です。
設問9より、図形の性質を考察する場面において、予想した事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考えることや、条件を保ったまま図形を動かしても成り立つ事柄を見つけ出すことに課題が見られます。	図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして発展的に考察するような学習活動を行うことが大切です。

4 生徒質問紙

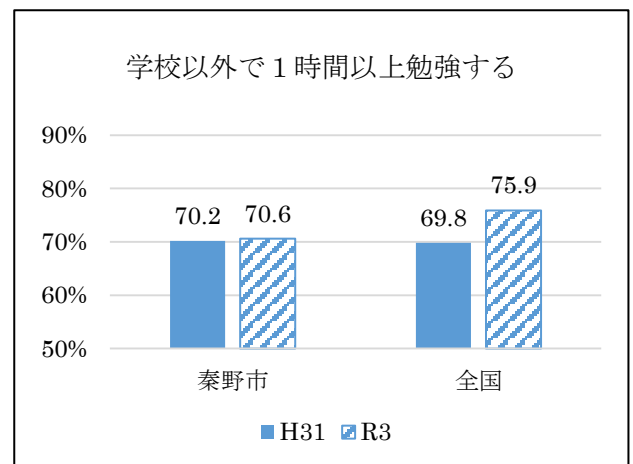
【非認知能力に関すること】

小学校同様、非認知能力を図る項目として本市が着目している「課題の解決に向けて自分で考え取り組んだか」という設問について、全国平均に及ばないものの肯定的に回答する児童が昨年と比べ大きく増加しています。自己肯定感や課題解決力をはじめとする非認知能力の育成は、学習指導のみならず生徒指導の面でも重要であることから、引き続き学校・家庭・地域が協力しながら育んでいくことが求められます。



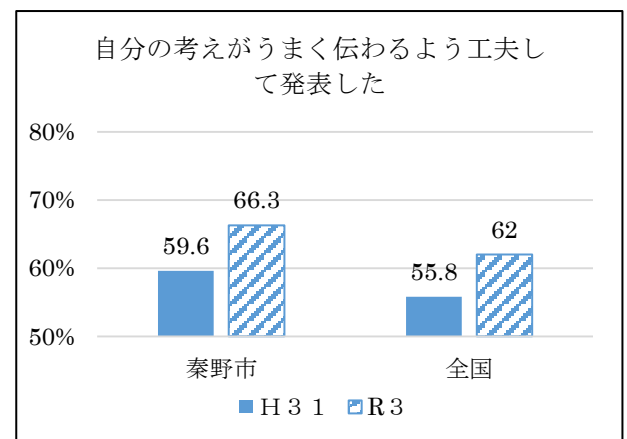
【生活習慣・学習習慣に関すること】

新型コロナウイルス感染症対策に伴う休校期間もありましたが、朝食の摂取率や起床・就寝時間など、基本的な生活習慣に関わる項目や普段の勉強時間についてはほぼ昨年度並みとなりました。学校のみならず家庭の協力を得られたことが大きな要因であると考えられます。規則正しい生活習慣や家庭での学習習慣を身に付けることは、今後豊かな生活を送る上で重要になりますので、引き続き家庭と協力した取組を進めていくことが重要です。



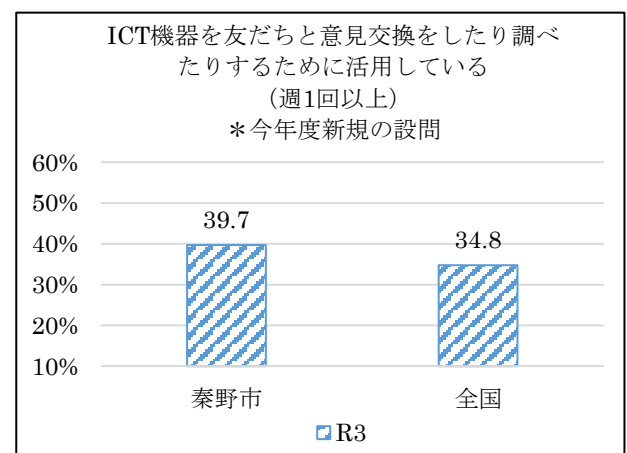
【学習方法に関すること】

「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」と回答する生徒の割合が大きく改善し、全国平均も上回っています。園小中一貫教育を通して大切にしてきた「学びの連続性」を意識した指導の成果が表れています。一方で、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできている」と回答した生徒は全国平均に及んでいないことから、自身の考えと比較しながら相手の話を受け止め、考えを一層深められるような聞き方を指導することも重要になります。



【ICT機器による学びの充実に関すること】

「ICT機器を授業で活用した」と回答した割合、さらに右図の「ICT機器を使って意見交換をしたり調べたりしている」と回答した割合が全国平均を上回っていることから、日常の授業において、ICT機器の効果的な活用が図られてきていることが分かります。引き続き、情報モラル、情報リテラシーの育成も踏まえながら、学習意欲や学習効果を高める有効なツールとして適切に活用していくことが求められます。



【その他主な項目】

	H30 年度 【%】	R1 年度 【%】	R3 年度 【%】	全国 【%】
朝食を毎日食べている	87.1	89.3	89	92.8
毎日同じ位の時刻に寝ている	68.6	73.9	72.7	79.8
毎日同じ位の時刻に起きている	86.6	90.9	88.8	92.7
夢や目標を持っている	71.3	70.1	62.5	68.6
自分にはよいところがある	75.0	73.6	73.3	76.2
やると決めたことは、やり遂げるようにしている			81.1	84.2
失敗を恐れず挑戦している		67.2	57.1	65.9
人が困っていたら助ける		84.7	83.5	88.5
いじめはどんなことがあってもいけない	92.6	95.9	92.4	95.9
人の役に立つ人間になりたい	91.8	93.3	91.9	95
学校は楽しい		81.6	77.4	81.1
自分の思いや感じたことを言葉で表すことができている			68.4	75.2
友だちと協力するのは楽しい			92.2	93.3
計画を立てて勉強している	43.6	50.0	54.3	63.5
学校以外で1時間以上勉強している	68.2	70.2	70.6	75.9
読書をする	53.3	54.2	46.8	62.5
新聞を読んでいる	21.8	27.4	14.9	23.2
地域行事に参加している	39.3	49.4	37.9	43.7
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	31.4	39.9	36.9	43.8
授業でICTを使用した		42.4	42.8	33.4
ICT機器を友だちとの意見交換や調べ学習に活用している			39.7	34.8
自分の考えを工夫して発表した	52.8	59.6	66.3	62
課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んだ	67.2	71.4	78.7	81
自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた			68.4	74.3
話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている	70.1	67.7	70	77.8
学習した内容について分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。			67.3	74.6
総合の学習では自分で課題を立て整理し、発表するなどの活動に取り組んでいる		66.8	66.2	70.2
道徳の授業では学級で話し合う活動に取り組んでいる。		73.3	81.2	86.2
英語の勉強は好きである		51.6	49.9	56.7
学校の休校中に勉強について不安を感じた			60.2	62.8
学校の休校中に計画的に学習を続けることができた			33.4	37.6
学校の休校中に規則正しい生活を送ることができた			42.1	48.4

